

船舶事故調査報告書

平成30年3月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	沈没
発生日時	平成29年9月10日 17時35分ごろ
発生場所	福岡県宗像市大島北方沖 筑前大島灯台から真方位036° 1,780m付近 (概位 北緯33° 55.4′ 東経130° 25.2′)
事故の概要	プレジャーボート ^{アマクサ} AMAKUSA3は、漂泊中、沈没した。
事故調査の経過	平成29年9月11日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート AMAKUSA3、5トン未満
船舶番号、船舶所有者等	290-21122福岡、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	主機等に濡損（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 3、視界 良好 海象：波高 約1m、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者4人を乗せ、大島北方沖で船首を南西方に向け、船尾からパラシュート型シーアンカーを投入して漂泊していた。</p> <p>船長は、右舷船尾部で釣りを行っていたところ、本船が、船尾方から波を受けて浸水し、船首部が持ち上がったので、船体の傾きを少なくする目的で同乗者3人に船首に集ってもらい、もう1人の同乗者（以下「同乗者A」という。）と共に船尾部でバケツにより海水を汲み出した。</p> <p>同乗者Aは、本船への浸水が激しくなり、排水作業が追いつかなかったため、海上保安庁に救助を要請した。</p> <p>本船は、船尾部が沈下し、船首部のみが海面上に出ている水船状態となった。</p> <p>船長及び同乗者は、全員が海に投げ出され、水船になった本船や付近に浮いていたクーラーボックスに掴まっていたところ、海上保安庁の依頼を受けて来援した水難救済会の所属船に救助された。</p> <p>本船は、その後、沈没した。</p> <p>船長及び同乗者は、全員が救命胴衣を着用していた。</p> <p>船長は、船尾方から波が打ち込んでいる状況でパラシュート型シーアンカーを入れ続けていたので、本船への浸水が激しくなったのではないかと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、大島北方沖で漂泊中、船尾からパラシュート型シーアンカ

	<p>ーを投入していたことから、船尾方から波が打ち込み、その後、浸水が激しくなって沈没したものと考えられる。</p> <p>本船は、船尾方から波が打ち込んでいる状況下、パラシュート型シーアンカーを投入し続けていたことから、浸水が激しくなった可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、大島北方沖で漂泊中、船尾からパラシュート型シーアンカーを投入していたため、船尾方から波が打ち込み、その後、浸水が激しくなって沈没したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気象、海象、船舶の^{たぐ}航性等を考慮し、適切な時機に帰航の判断をすること。 ・ パラシュート型シーアンカーは、船首側から投入することが望ましい。 ・ 波が打ち込んだ際は、パラシュート型シーアンカーを揚げて排水作業を行うことが望ましい。